

# 自立に向かう図画工作科の学習とカリキュラムの展開

加藤 潔 己

## 1 はじめに

教科提案の稿で述べたように、本校図画工作科の主たる目標は、創造的心情の育成である。創造的心情とは、「よりよく人生をクリエイティブしていく」心情であり、「困難に立ち向かい」、「殻を破っていく」心情ととらえている。この心情は、学校教育という枠を越えて、自分のライフスタイルの中、つまり、「生涯学習」の視点で考えようとするものであり、自己教育力の育成と深く関わるものであると考える。

本来、子ども達は一人ひとり、豊かな思いを持っている。しかし、昨今、その方法を知らずに、あるいは、その方法を試すような経験を十分に保証されずに、成長する子どもたちが増えているのではないか。失敗を恐れ、のびのびと絵を描けなかったり、一つの表現方法でしか表そうとしなかったりする子どもたちも見られる。

自分の思いを表現するのに多様な方法を試したり、じっくり考えたりすることや、また、それを遊びの中で培っていくなどの環境が、効率化優先、見栄え重視、結果重視などの、大人の価値観の暮らしのなかで、失われてきているのではないかと考えた。図画工作科として、このような子ども達の実態とまわりの環境を踏まえて、求める子ども像を構想してきた。

### 求める子ども像（図画工作科）

思い（夢や願い）の実現のために  
**自ら  
必要な方法を考え、  
判断し、表現する  
子ども**

## 2 研究の方向

「自立に向かう」ために、「自分で決める場」を大切にしている。図画工作の学習は本来、活動の自由度も大きく、子ども達が自分で決めていくことは多い。そこで、決めたり、選んだりする場や環境として、次のようにいくつかの要素について考えた。

### 決定要素として考えたもの

テーマ、表現形式、材料、表現方法（技法）、時間、空間、仲間

学習のねらいによって、何を学習者（子ども）が決め、何を指導者（教師）が決めていくのかを整理していく。その中で「自立」という視点、つまり主体的思考力、課題解決能力、関わりの中で自信を持って「自分らしさ」を探究していく力を育てていくうえで、子ども達が「自分の思いを持って、自分の力で決めていくこと」が重視されなければならないと考える。

さらに高学年では、「自ら必要な方法を考え、判断」するうえで、**見通しをもって、総合的に学習することに重点を置く。**ここでいう「総合的に」とは、それまでに学習してきたいろいろな材料経験、表現方法を駆使して取り組むという意味での「総合的に」である。扱う材料や表現方法、表現方法など、さまざまことを、子ども達が**自分で決めていく場**が期待できる題材の開発を構想した。

### (1) 題材づくりの視点 総合的に取り組める題材

決定要素（テーマ、材料、表現方法など）を子ども達が決めていく場が多い  
これまで学習してきたことを生かして取り組むことができる

これまでに積み重ねてきた材料経験や取り組んできた表現方法、表現形式を生かすことができるような題材の設定を考えていく。逆に言えば、この題材に取り組む以前に、発展性のある題材、次に生かせる題材を積み重ねてきたかどうか問われるところである。

本稿では、以上述べてきた「総合的に取り組む題材」の指導事例を紹介する。

### 3 実践事例

題材 「島をひとつもらえたら」 6学年単式学級 38名

#### 題材について

「自分だけの島」という投げかけは子ども達の空想の世界を広げ、様々な発想を期待できると考える。子ども達は「自分の島」をつくりながら、自分の夢やあこがれ、願いをふくらませたり、深めたりしながら、自分なりのイメージを追求するであろう。

「島をひとつもらえたら」という題材のテーマは教師サイドで提案する。そこから先、つまり、材料や用具あるいは方法や技法についての決定は、子ども達が、自分で考え、判断し、表現する題材として設定する。ここでは、これまでに積んできた材料経験や取り組んできた表現方法、あるいは表現形式を生かして、総合的に製作していくことをねらっている。

これまで本学級の子供達は、五年生で「自分だけのどこでもドア」そして、「不思議なたまごの中から」など、夢やあこがれなどの自分の思いを、自分で決めた自分なりの材料や方法で表現する題材に取り組んできた。そこでは、また、製作過程について、大まかな見通しを持って構想する経験も積んできた。しかし表現方法や様式に関しては、まだまだ自分の思いに応じていろいろな方法を試したり、追究したりするまでには至っていない。

#### 学習のねらい

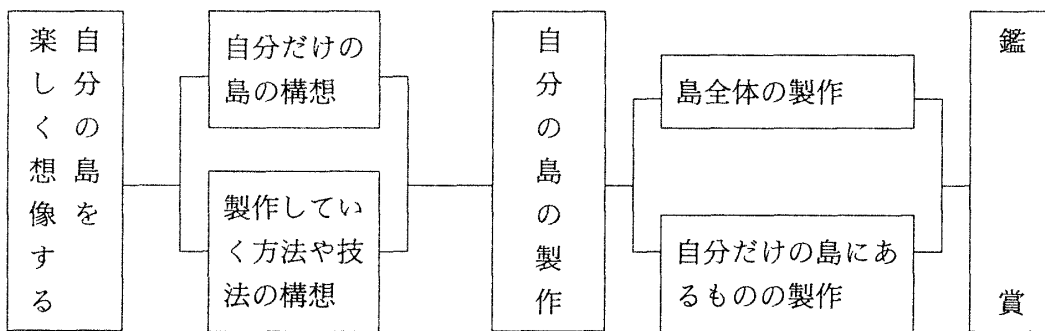
- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 見通しを持って、意欲的に取り組むことができるようにする。      |
| 2. これまで学習してきたことを生かして取り組むことができるようにする。 |
| 3. 自分や友達よさに気づき、互いに認め合う態度を養う。         |

指導内容と計画……………7時間（本時 第一次 第2時）

第一次（2時間）構想

第二次（4時間）製作

第三次（1時間）鑑賞



#### 決定要素と決定主体

子どもが決める		教師が決める（設定する）
材料	どんなテーマで 何を使って	テーマ
方法（技法） 空間（立体，平面）	いつ、どのくらいの時間で どんな方法で どこに	時間
表現形式	だれと どんなふう	仲間

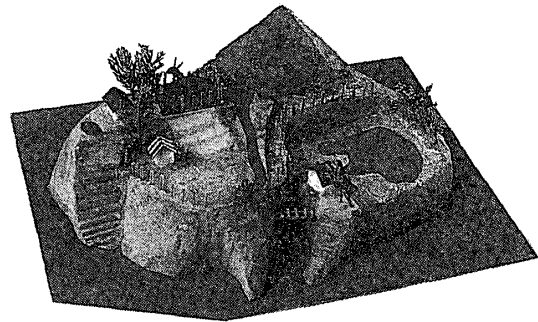
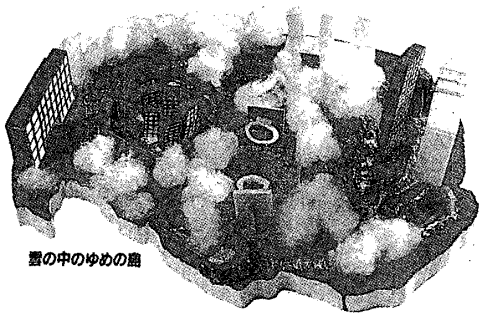
## 本時のねらい

自分が作りたい島のイメージを追求するための表現方法や材料選びについて、見通しを持って構想することができる。

**準備物** (教師) これまでの造形活動の経験を想起できる資料、数種類の島そのものの製作の表現方法のサンプル、材料のサンプル (子ども) 設計図、構想のメモ、絵コンテなど

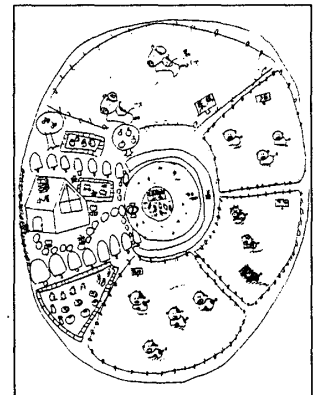
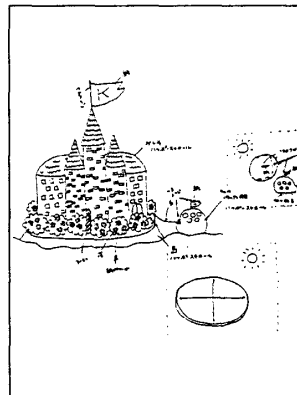
## 学習の様子

子ども達は、第一次の学習で、友達と話し合ったり、簡単な設計図を描いたりしながら、楽しく自分の作りたい島について想像した。第1次の2時間目には、サンプルとして、必要な子どもたちに作品例を紹介した。



第二次からは、自分の作りたい島の製作について計画を立てたり、様々に試したりしていきながら、構想を練る時間である。子ども達が、自分のイメージしている島をどのような形にするのか、どのような材料で作るのか、自分のイメージにより近い方法は何なのかを構想できるように、進んで試していける場を設けていく。

まず、子ども達は、前時までに考えた作りたい島のイメージをもう一度見直すとともに本時のめあてをつかむ。一人一人が自分の設計図、構想のメモ、絵コンテなどを見直すことによって、再度、自分の島のイメージに近いものになっているかふりかえることができるようにするところから始まる。



そのための支援活動として、教師側からは、数種類の島の製作の表現のサンプルやこれまでの造形活動の経験を想起できる資料のコーナーを設定することによって、自分の作りたい島のイメージを追求するための表現方法や材料、用具などの選択について考えることができるようにする。

次に、子ども達は、表現方法や材料、用具選択などについて構想する。

教師側の働きかけとして、次の点に心がけながら、個別指導をしていく。

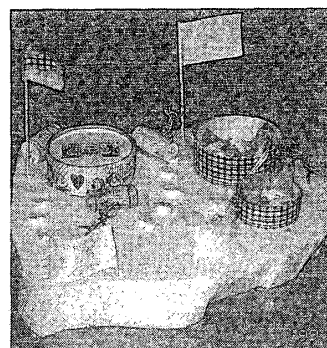
・新しい発想やよい工夫があれば、その場で取り上げて、他の子どもにも紹介する。

- ・自分の思いにあわせて、素材や用具を選んだり、新しい表現を試みたりすることを励ます。
- ・必要によって新たに、設計図、構想メモや絵コンテなどを書くことをすすめる。

この時間の終わりには、活動をふりかえり、次の時時から活動の見通しを持つことができよう

に、本時の感想や次にしてみたいことについてふりかえる場を設け、次からの活動の見通しを持った。

子ども達の活動の様子および作品



### 実践をふりかえって

島を作るときのその土台になる物として、ベニヤ板(45cmの正方形)、発泡スチロール(40cmの正方形)を用意した。これらは必要によって使うことをすすめたが、ほとんどの子ども達が、どちらか、あるいは両方を使った。子ども達が製作していくときの様子から考えると、45cmあるいは40cmの大きさが、この時期の6年生にとって、全員には、ベストサイズではなかったと思われる。子どもによっては、2枚、3枚とつなぎ合わせ、大きな物を作ることもあったが、もう少し小さなサイズのものに、思いを入れやすい子ども達もいるのではないかと考える。学年が上がるほど大きな物という発想とは逆に、小さな物に集中することも十分考えられよう。

教師側の願いの中に、子ども達が試行錯誤の中や失敗経験の中で、いろいろなことをつかんでいき、できるだけ、事前の先回り指導をしないように設定したが、紙粘土を使う子どもには、乾燥を考えた保管の仕方の指導も事前の指導としては必要であろう。どこまで指導し、どこまで任せるかの見極めが難しいところである。

### 4 自立に向かう図画工作科の教育課程(カリキュラム)の視点

子ども達の「自立」を育む上では、できるだけ子ども達が自分たちで決めていく場を保證することを重視したい。つまり決定要素をできるだけ子ども達に委ねていくというものである。このような題材を、年間指導計画の中に位置づけていくことが必要であると考え。ただ、このような題材が多ければ多いほどいいということではなく、下の表のようにねらいを焦点化した題材を考えなくてはならない。教師側の設定の割合が大きい題材で、子ども達が様々な造形経験をつんで行くことも不可欠なことである。

	教師側の設定の割合が多い題材	子どもが自分で決めることが多い題材
題材	表現欲求、心の解放を主なねらいとする題材	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           学年段階に応じた総合的題材            ・決定要素を子ども達が決める            ・それまでに学習したことを総合的に活かせる題材         </div>
	材料経験、表現方法・表現様式の獲得を主にねらう題材	
	相互理解を主なねらいとする題材	
	造形的な見方・考え方の獲得を主なねらいとする題材	
	知識、技能、造形文化の獲得を主なねらいとする題材	
<b>「造形遊び」の考え方をもとにして</b>		

この表の視点で、高学年(5・6学年)のカリキュラムを構想した。(次ページ)

5 学年	題 材 名	ね ら い	シ ョ ー ト タ イ ム の 鑑 賞 題 材
知識、技能、造形文化の獲得を主なねらいとする題材	伝えるくふう ④	形の単純化や色調の工夫により、知らせるものや場所の特色を生かして伝えるものをつくり生活を豊かにできることを理解するようにする。	
材料経験、表現方法・表現様式の獲得を主にねらいとする題材	光の国の動物たち ④	自分の考えた空想の動物を作り、光の効果を生かして表現する楽しさを味わうようにする。 形や色の美しさや力強さ、不思議さなど、立体としての特徴をとらえるようにする。	
総合的題材	楽器を作ろう (音楽・理科) ⑥	身の回りにあるものを使って楽器を作り、楽器の仕組みを理解し、物づくりの楽しさを味わうようにする。	
表現欲求、心の解放を主なねらいとする題材	土鈴を作ろう ⑥	やきものを焼く楽しさ、粘土が焼成されていく不思議さを感じとり、素朴な土鈴の音を体感するようにする	
材料経験、表現方法・表現様式の獲得を主にねらいとする題材	一枚の板から ⑧	生活を豊かにするものを用途や美しさなどを考え、見通しを持って意欲的に製作するようにする。 デザインの能力や創造的な工作の能力を高め、自分で作ったものを使う楽しさを味わうようにする。	
相互理解を主なねらいとする題材	友だちを描こう ④	運動会、遠足などの友達の様子を表現するようにする。	
材料経験、表現方法・表現様式の獲得を主にねらいとする題材	竹と遊ぼう ④	小刀の使い方を理解し、竹を成形するようにする。 竹の特質を理解し、用具などを正確に使うようにする。	
知識、技能、造形文化の獲得を主なねらいとする題材	年賀状 木版画カードづくり ⑥	木版画の特色を生かし、楽しい年賀状づくりをするようにする。	
総合的題材	自分だけのどこでも ドア ⑧	ドアの中に広がる世界を見通しをもって、表現するようにする。	

6 学年	題 材 名	ね ら い	シ ョ ー ト タ イ ム の 鑑 賞 題 材		
材料経験，表現方法・表現様式の獲得を主にねらいとする題材	パズルを作ろう  ⑧	木をつかって計画的に製作することや，糸のこぎりの基本的な扱いに慣れるようにする。		シ ョ ー ト タ イ ム の 鑑 賞 題 材	
表現欲求，心の解放を主なねらいとする題材	たこを作ろう  (山の学習)  ④	山の学習であげるたこを自作する楽しさを味わうようにする。 竹ひご，和紙，糸などの材料の特質を生かし，見通しをもって製作するようにする。	シ ョ ー ト タ イ ム の 鑑 賞 題 材		
材料経験，表現方法・表現様式の獲得を主にねらいとする題材	切り絵をしよう  ⑥	切り絵の味わいに関心をもち製作意欲がもてるようにする。 構想を練ることを楽しみ，表現を工夫する姿勢をもつようにする。			シ ョ ー ト タ イ ム の 鑑 賞 題 材
知識，技能，造形文化の獲得を主なねらいとする題材 造形的な見方・考え方の獲得を主なねらいとする題材	ピカソを鑑賞しよう  ④	ピカソの造形作品を鑑賞し，ピカソの製作への考え方，人間性にふれ，鑑賞を楽しむようにする。			
総合的題材	島をひとつもらえたら  ⑧	これまでに学習してきたことを生かして，見通しを持って，作りたい島の製作をするようにする。		シ ョ ー ト タ イ ム の 鑑 賞 題 材	
総合的題材	修学旅行の感動や思いを絵巻物やアルバムに (国語・社会)  ⑩	自分のテーマにそって，修学旅行を絵巻物やアルバム(和綴じ)に表すようにする。 表したい感じが表れるように，画面の構成を考え，写真やパンフレットなどを効果的に生かすようにする。	シ ョ ー ト タ イ ム の 鑑 賞 題 材		
総合的題材	卒業制作 卒業アルバムの表紙をデザインしよう  ⑩	卒業アルバムの表紙のデザインを見通しをもって計画的に製作するようにする。			シ ョ ー ト タ イ ム の 鑑 賞 題 材